

# みなさまの献血が患者さんの命を救います

## 献血は一年中毎日必要です

血液センターでは、医療機関の血液需要をあらかじめ予測し、これに沿って献血のご協力をお願いしております。しかし、血液は1年中必要とされているのに対して、献血のご協力には季節などによって変動があります。

例えば、冬場から春先にかけては、風邪や花粉症などで体調を崩す方も多く、学校や企業・団体なども多忙な時期にあたるため、献血のご協力が少なくなってしまう時期になります（下図）。

■月別献血者数（平成16～18年度平均）

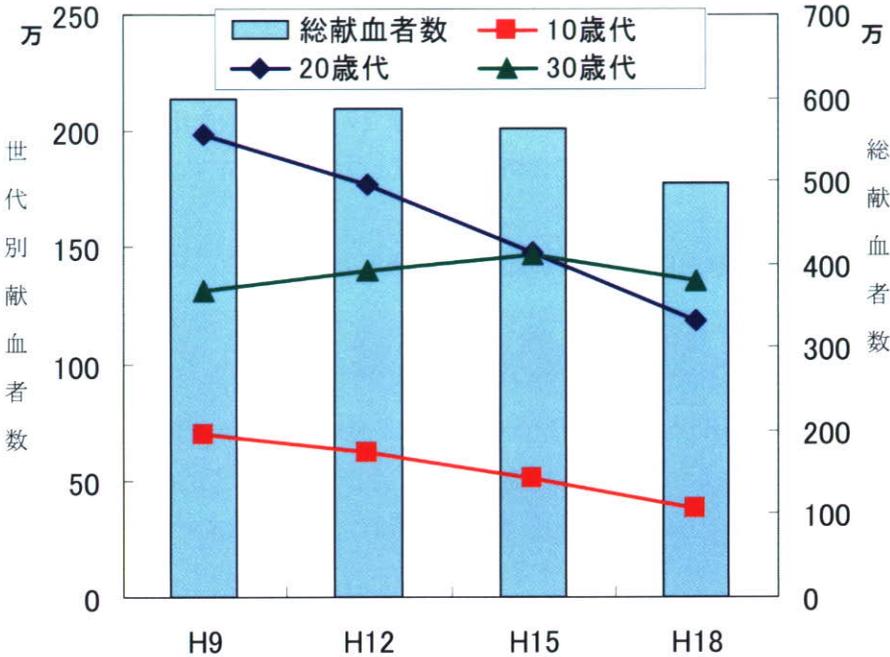


献血者の減少は、長期保存のできない輸血用血液の不足を引き起こしてしまいます。このような場合には全国の血液センター間で相互協力して、確実に病院へ血液を届けることができるようにしております。血液を安定的に届けることができるように、1月～4月には「はたちの献血キャンペーン」「いっしょに献血キャンペーン」を実施し多くの方に献血のPRをしています。献血者が少なくなる時期にみなさまのご協力を特にお願いいたします。



# 若い方からの献血が減少しています

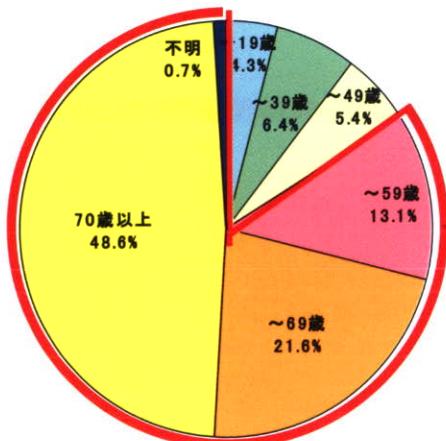
## ■ 世代別献血者数の推移



全体の献血者が減少する中、若い方々、特に20歳代の献血者が同世代人口の減少以上に減っています。

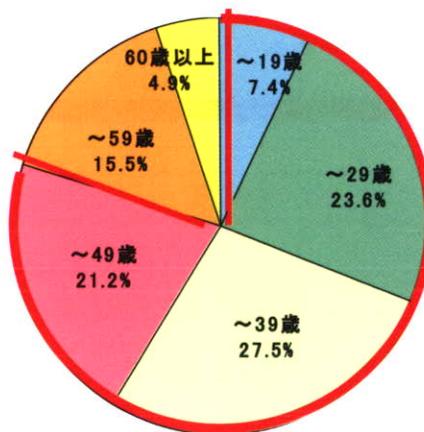
## ■ 年齢別輸血状況

輸血を受ける人の約84%は  
50歳以上です。



平成18年東京都のデータ  
東京都福祉保険局調べ

献血をする人の約80%は  
50歳以下です。



平成18年度献血者  
年代別内訳

輸血用の血液のほとんどは中・高齢者の医療に使用されています。今後社会の高齢化が進むにつれ血液の需要はますます多くなると予測されますが、献血者数は上記のグラフのように年々減少しています。特に少子化に伴い若い方々からの献血が非常に少なくなりました。

必要な血液の供給ができなかったことはありませんが、血液の在庫には余裕がなくなっており、緊急大量輸血時の対応が困難になりつつあります。将来の安定した輸血医療のためにも、より幅広い年齢層からの献血協力が必要になっています。

# 献血は輸血医療に欠かせないものです

## 輸血を受けた人、輸血に関わる人のメッセージ

### ● S. I.さん

私は7年前にがんの告知を受け、まさか今までかぜもひいたことのない自分が本当にがんなのか信じられませんでした。その後抗がん剤、放射線治療の継続で貧血というつらい状態になってしまいました。輸血の大切さも全く分らなかったのに、輸血という治療にお世話になって本当にありがたく思いました。

私は、30～40代頃に何度か献血に行ったのですが、数値が足りないということでできませんでした。輸血用の血液が足りないとテレビなどでもよく聞きます。何度か助かった体験から、血液は“本当に大切なもの”だとつくづく思います。

元気で生活しておられる方々にお願いします。

どうか時間があれば1人でも多くの患者さんが助かるように献血にご協力をお願いしたいと思います。

### ● 匿名希望さん

「献血してきた」と主人が言った。腕にバンソウコウの跡がある。

献血などは『虚弱体質』『針が痛い』などいい、今まで一度もしたことのない主人。私は天と地がひっくりかえるかと思った。びっくりしたと同時に涙が出た。今は輸血しなければ生きていけない私のもとに、主人の血がやってきてくれるかもしれない。

私は素直にありがとうと言えず「私が病氣したおかげやね」と言ってしまった。でも、本当は主人が出してくれた勇気にとても感謝している。

必ず全国の誰かの役に立っていると思うから・・・。

主人を含めた献血者の皆さん、本当にありがとう。



○○大学附属病院 ●●先生

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

献血についてより詳しく知りたい方のために

## — 資 料 —

資料 1: 輸血とは

資料 2: 血液とは

資料 3: 血液製剤一覧

資料 4: 献血に際してのお願い

資料 5: 血液事業の運営について

資料 6: 血液の安全確保対策

資料 7: 献血時の問診の説明(内容と目的)

資料 8: 血液センターにおける感染症検査

資料 9: 核酸増幅検査(NAT)

資料10: 献血後の検査通知項目

資料11: 健康被害救済制度

資料12: 我が国の血液事業のあゆみ

# 分担研究

---

## HIV検査通知に関する諸外国の実情調査

分担研究者

日本赤十字社血液事業本部 田山 達也

平成 19 年度 厚生労働科学研究費補助金  
医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

献血時の問診、説明と同意に関する研究

分担研究

「HIV 検査通知に関する諸外国の実情調査」

研究概要

目的

HIV 検査通知のあり方を検討するために、諸外国の実情を調査し参考にする。

方法

献血者への HIV 検査通知に関する諸外国の状況調査は、国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC)、世界保健機構 (WHO) 等の国際機関の公文書、英国、アメリカ、カナダ各国の公文書により、アジア・オセアニア諸国については第 4 回アジア地域赤十字・赤新月血液事業シンポジウムの報告書より、さらにはインターネット検索で入手した情報により実施した。

結果と考察

WHO、国際輸血学会 (ISBT)、IFRC 等の国際機関は「すべての献血者は、検査結果を知らされる機会を与えられること。HIV や他の感染病原体に感染していることを知らされた献血者は、適切なカウンセリングがなされ、専門医に紹介されるべきである。」と勧告している。米国の疾病予防センター (CDC) と連邦食品医薬品局 (FDA)、カナダの社会保健協会 (CPHA)、英国 (UK) の血液サービス (NBS) も、血液センターが感染症検査陽性献血者へその結果を通知し、必要に応じて医学的なフォローアップとカウンセリングを行うべきとの勧告、規定やガイドラインを作成している。

欧米およびアジア・オセアニア諸国の多くは、国際的な勧告や各国のガイドラインに従って、HIV 陽性献血者に結果を通知し、カウンセリングを行っていることが確認された。アジア・オセアニア諸国のうち、HIV 陽性献血者に通知もカウンセリングも実施していない国は、バングラデシュ、インドネシア、韓国で、その他の国々では一部地域に限定的な場合も含めて実施されていた。いずれにしても、わが国のような対応をしている国は世界では例外的である。

## 分担研究者

田山 達也 日本赤十字社血液事業本部

### A 研究目的

HIV 陽性献血者に対する通知の有無については、HIV 感染リスクのある者による検査目的の献血に伴う輸血感染リスクの増大の回避、同献血者の治療と HIV 感染拡大防止のためのカウンセリングやフォローアップ及び献血以外の社会的 HIV 検査体制の整備等を考慮しつつ慎重に対応する必要がある。今日まで、わが国においては検査目的の献血を排除するため、HIV 陽性献血者へは通知しない方針がとられてきた。今後もこの方針を維持することの妥当性を検証するため、HIV 陽性献血者への通知に関する諸外国の実情を調査する。

### B 研究方法

ヨーロッパ諸国における HIV 陽性通知の実情については、木村らにより 2001 年から 2003 年に調査されている<sup>1)</sup>。本研究においては、これら以外の国々及びアジア諸国について調査した。

1. 赤十字・赤新月社連盟 (IFRC)、世界保健機関 (WHO)、アメリカ、カナダ、UK については、各機関・国の公文書に基づいた。
2. アジア、オセアニア諸国については、第 4 回アジア地域赤十字・赤新月血液事業シンポジウム (主催: 日本赤十字社、2004 年、バンコック) にあわせて実施したアンケート調査に基づ

いた<sup>2)</sup>。

3. インターネットにより検索した。

### C, D 結果と考察

#### 1. IFRC

赤十字輸血専門家国際グループは、以下の勧告を行った<sup>3)</sup>。

- ① HIV 陽性が確定された場合は、その結果を献血者に通知し、指導をすべきである。
- ② HIV 検査結果は極秘情報であることから、当該献血者の指導及び血液供給の安全性の決定以外のいかなる目的でも、その情報を公開することは容認されない。

#### 2. WHO

1994 年、パリ・エイズサミット会議に先立ち、WHO は国際輸血学会 (ISBT) 及び IFRC とともに、血液サービスの基本原則として以下の国際的コンセンサスを得た<sup>4)</sup>。

- ③ すべての献血者は、検査結果を知らされる機会を与えられること。
- ④ HIV や他の感染病原体に感染していることを知らされた献血者は、適切なカウンセリングがなされ、専門医に紹介されるべきこと。

#### 3. アメリカ

1996 年、Dept. of Health and Human

Services と Centers for Disease Control and Prevention (CDC) は、HIV 陽性献血者に対するカウンセリング及びフォローアップに関するガイドラインを発出した<sup>5)</sup>。

2001 年、CDC と Food and Drug Administration (FDA) は、血液サービスが感染症検査陽性献血者へその結果を通知すべきこと、必要に応じて医学的なフォローアップとカウンセリングを行うことを連邦規制基準 (Federal Register) に規定した<sup>6)</sup>。

2006 年 4 月現在、本規定は変更されていない。

#### 4. カナダ

Canadian Public Health Association (CPHA) は、カナダの血液システムに関する調査委員会に対して、血液サービスあるいは地域の保健機関が協力して感染症陽性献血者に検査結果を適切に通知するよう勧告した<sup>7)</sup>。

#### 5. UK

National Blood Service (NBS) は、HIV 陽性献血者への検査結果の説明内容と方法及び健康相談等献血者対応手順に関するガイドラインを発出した<sup>8)</sup>。

#### 6. アジア・オセアニア諸国

2003～2004 年におけるアジア・オセアニア 18 カ国・地域 (オーストラリア、バングラデシュ、カンボジア、中国、香港、インドネシア、韓国、ラオス、マカオ、モンゴル、ミャンマー、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、

シンガポール、タイ、ベトナム) の 2003～2004 年における実情を別表・1 に示した。

HIV 陽性献血者に検査結果を通知せず、カウンセリングも実施していない国はバングラデシュ、インドネシア及び韓国であった。カウンセリングのみ実施しているネパールを除くその他の国・地域では、通知及びカウンセリングを実施しているとの回答を得た。

本アンケート調査は、日本赤十字社が本シンポジウムに参加する各国赤十字社に依頼したものであり、回答の信頼性を疑うことはないと思われる。しかし、本シンポジウムに参加した日本赤十字社代表が各国代表との討議から得た感触では、通知及びカウンセリングを実施していると回答した国々において、法規則に基づいて通知しているわけではない、同国内でも地域によって対応が異なる、一部の血液サービスのみで行われている、現在の日本と同じような対応をしていながら通知していると回答している等その実情は様々であるとのことであった。したがって、本調査結果については参考とした。

#### 7. インターネット検索

HIV 陽性献血者に通知せずカウンセリングもしないとする国・地域、血液サービスは確認されなかった。

#### E まとめ

北米及びアジア・オセアニアの多くの国々において IFRC、WHO、ISBT 等の

方針に基づいてHIV陽性献血者へ検査結果を通知し、カウンセリングを実施していることが確認された。しかし、一部のアジア・オセアニア諸国ではその実施形態が必ずしも統一されてなく、実態としては一部の地域あるいは血液サービスでの実施が伺われた。

通知及びカウンセリングを実施していない国はバングラデシュ、インドネシア、韓国であった。これらの国々において、実施していない理由については不明である。

HIV陽性献血者に対してわが国のような対応をしている国は見当たらなかった。

#### F 健康危険情報

該当なし

#### G 研究発表

予定あり

#### H 知的財産の出願、登録状況

該当なし

#### I 文献

1. 木村和子 他：海外のドナーセレクトに関する研究、厚生労働科学研究「HIVの検査法と検査体制を確立するための研究」（主任研究者：今井光信）平成12～14年度総合研究報告書 p170-173.
2. SECURING SAFE BLOOD (IV), The Fourth Red Cross & Red Crescent Symposium on Blood Programs in the Asian Region November 15-19, 2004.
3. 輸血によるAIDS感染予防ガイドライン、赤十字・赤新月社連盟；赤十字輸血専門家国際グループ 1988年.
4. 血液安全戦略会議報告書、パリ・エイズサミット 1994年.
5. U.S.Public Health Service Guidelines for Testing and Counseling Blood and Plasma Donors for Human Immunodeficiency Virus Type 1 Antigen. MMWR March 1, 1996 / Vol.45 / No.RR-2.
6. General Requirements for Blood, Blood Components, and Blood Derivatives: Donor Notification. Federal Register / Vol.66, No.112 / Monday, June 11, 2001, 31165-31177.
7. Recommendations Regarding Screening, Notification and Tracking. Public Health

and the Blood System in Canada, Issues and Priorities.

8. Management of Donors with Confirmed Positive Microbiological Markers

MANAGEMENT PROCESS DESCRIPTION MPD/MED/CM/009/01, National Blood Service 01 NOV 2002.

別表-1. アジア・オセアニア諸国におけるHIV通知、陽性率等の実情

○：実施 ×：未実施

|          | HIV陽性献血者 |         | 本人確認の方法        | HIV1/2抗体陽性率% |        | 調査範囲             |
|----------|----------|---------|----------------|--------------|--------|------------------|
|          | 通知       | カウンセリング |                | 献血者          | 全人口    |                  |
| オーストラリア  | ○        | ○       | 運転免許証<br>学生証 等 | 0.0005       | 0.1    | 全国               |
| バングラデシュ  | ×        | ×       |                | 0            |        | 赤十字<br>血液センター    |
| カンボジア    | ○        | ○       | 献血カード          | 1.9          | 2.6    | 全国               |
| 中国       | ○        | ○       |                |              |        | 北京市              |
| 香港       | ○        | ○       | 献血カード<br>IDカード | 0.008        |        | 香港               |
| インドネシア   | ×        | ×       | IDカード          | 0.11         |        | 全国               |
| 韓国       | ×        | ×       | IDカード          | 0.1          |        | 全国               |
| ラオス      | ○        | ○       |                | 0.02         |        | ピエンチャン<br>血液センター |
| マカオ      | ○        | ○       |                | 0            | 0.005  | マカオ特別行政区         |
| モンゴル     | ○        | ○       | パスポート等         | 0            | 0      | 全国               |
| ミャンマー    | ○        | ○       | 前回献血記録チェック     | 0.6          |        | ヤンゴン<br>血液センター   |
| ネパール     | ○        | ×       | 献血カード          | 0.44         |        | 全国               |
| ニュージーランド | ○        | ○       | 本人を証明する文書      | 0.002        |        | 全国               |
| パキスタン    | ○        | ○       | 献血者番号等         |              |        | 赤十字<br>ドナーセンター   |
| フィリピン    | ○        | ○       |                | 0.00001      | 0.0017 | 赤十字<br>血液センター    |
| シンガポール   | ○        | ○       | パスポート等         | 0.0023       |        | 全国               |
| タイ       | ○        | ○       | IDカード          | 0.18         |        | 赤十字<br>血液センター    |
| ベトナム     | ○        | ○       | IDドナーカード       |              |        | ホーチミン<br>ドナーセンター |

(第4回アジア地域赤十字・赤新月血液事業シンポジウム、2004年11月)